ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

シートNO.

ボーリング名	BV-E-2	調査位置				北　緯	36 ° 35 ’ 46.0000 ”
発注機関	栃木県真岡土木事務所			調査期間	2008-01-25 ～ 2008-03-25	東　経	140 ° 12 ’ 22.0000 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	106.56 m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機		ハンマー落下用具	
総掘進長	20.00 m								エンジン		ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	105.66	0.90	0.90		表土 (SF)	暗褐			GL-0.0～0.1mに植物根を混入し、少量の礫を含む。粘性・含水ともに低位。		
2					強風化火山角礫岩 (Vb)	褐			ほぼ岩芯まで粘性化した強風化層であり、所々に安山岩礫を混入する。		02/21 1.90
3	103.56	2.10	3.00		風化火山角礫岩 (Vb)	褐～褐灰			固結した区間が多いものの、大部分が指圧により崩すことができる。 GL-4.8m以浅は、地下水の流入により褐色を帯びている。 GL-4.7m付近、GL-6.9m付近に未風化の岩を混入する。		
9	97.76	5.80	8.80		弱風化火山角礫岩 (Vb)	暗灰			Lmax=25cmの短棒状コアとして採取され、上層部より硬質となるが、脆弱な箇所が多い。 脆弱部は、GL-9.8～10.9mとGL-13.0～14.0m付近に見られる。		02/20 8.65 02/21 8.90
15	91.52	6.24	15.04		火山角礫岩 (Vb)	暗灰			Lmax=95cmの棒状コアとして採取され、新鮮で硬質な岩質を呈する。 岩は安山岩、基質は凝灰岩である。 基質の割合が少なく、硬質な安山岩が大部分を占め、地下水による汚染はない。		

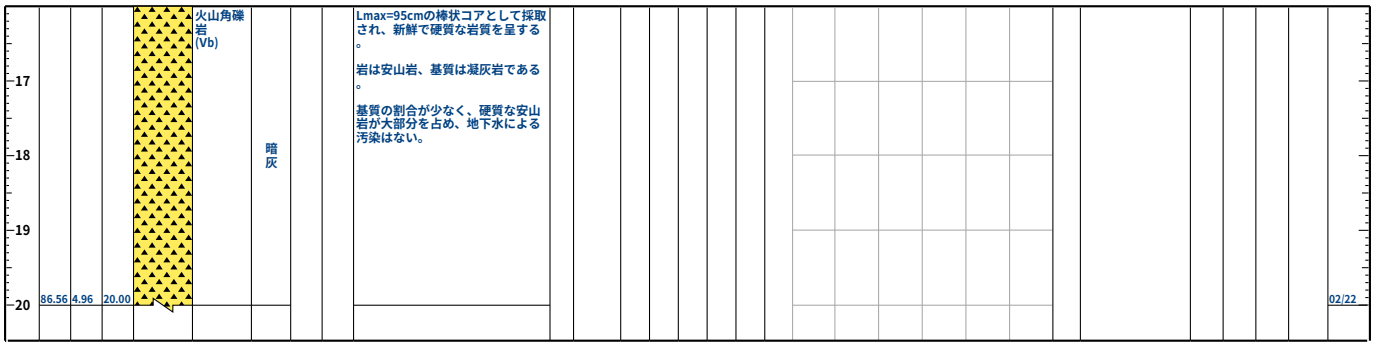
標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	3	3	2	8／30	8
1.45					
2.15	2	3	4	9／30	9
2.45					
3.15	6	7	7	20／30	20
3.45					
4.15	6	7	5	18／30	18
4.45					
5.15	4	5	6	15／30	15
5.45					
6.15	4	7	11	22／30	22
6.45					
7.15	3	4	4	11／30	11
7.45					
8.15	4	5	4	13／30	13
8.45					
9.15	17	33／9		50／19	>50
9.34					
10.15	17	18	15／7	50／27	>50
10.42					
11.15	50／3			50／3	>50
11.18					
12.15	43	7／1		50／11	>50
12.26					
13.15	28	13	9／9	50／29	>50
13.44					
14.05	34	16／2		50／12	>50
14.17					
15.00	50／4			50／4	>50
15.04					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験

掘進月日
02/20
02/22


17
18
19
20
86.56
4.96
20.00
火山角礫岩
(Vb)
暗灰
Lmax=95cmの棒状コアとして採取され、新鮮で硬質な岩質を呈する。
岩は安山岩、基質は凝灰岩である。
基質の割合が少なく、硬質な安山岩が大部分を占め、地下水による汚染はない。
02/22